

上下水道工事業における墜落・転落災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	14~15	送水管布設工事現場で、長さ6m・幅1.5m・深さ1.9m程掘削し、アルミ矢板を建て込む作業を行っていたが、アルミ矢板の押さえ金具がH鋼に挟まっていた。バールを使用して押さえ金具を取り外そうとした時に、バランスを崩して掘削した穴に落下し、左足を負傷した。	40~9	1
2	16~17	宅内下水道排水設備工事現場において、被災者は配水管の埋設作業後、埋設個所の真上に位置する屋根に積もっている雪が、次の作業工程に影響しないようにと除雪のため屋根（トタン葺）に上がった。スコップを使用して雪を下ろそうとした時、足元が滑ってしまい、約3m下の地面に落下し、負傷したもの。	52~9	1
3	14~15	重機・資材置場にて、タイヤショベルのドアを閉めて降りる際に、雨が降っていたので滑ってしまい、後ろ向きに転倒して腰部と右手関節を強打し、痛みとしびれがひどく歩行も困難になった。	68~9	1
4	16~17	水第老朽管布設工事にて竣工検査を完了し、追加工事のバイパス管撤去工事現場で作業が終了し、2tユニック車を歩道に駐車して道具を片付けていた。2tユニック車に道具を積み込もうとしたとき、2tユニック車が後ろに動き始めてしまい、被災者が2tユニック車を止めようと運転席に乗り込もうとしたが間に合わず、運転席側が横倒れし下敷きになった。	28~29	10
5	11~12	立坑内に入るために、昇降口付近に立ち（深さ約0.6m）、安全帯を装着しようとしていた際、セーフティブロックを引き寄せて、安全帯のロリップ環にセットした後、帯を腰に巻こうとしていたが、セーフティブロックを引き寄せた時にバランスを崩して3.15m下まで落下した。	41~9	1

5	17~ 18	当社資材倉庫で、ダンプトラックの荷台の上で鋼材の荷下ろし作業中に、足を絡ませて荷台から転落し、落下地点に塩ビ管があり、塩ビ管に胸部を強く打ちつけて負傷した。	51	1 ~ 9
5	10~ 11	自社にて、事務所雨水配管工事に使用する重機をトラックに積載中、重機の運転操作を誤り横転した際に、右足首を捻り負傷した。	26	1 ~ 9
7	16~17	雨水調整池の水槽内で水位計を設置する電気設備用の足場組立中、クランプ固定やストッパー設置といった、軽作業をしていて作業エリア外の間梁上に昇り梁上から足を滑らせて6.4m墜落した。	64	1 ~ 9
7	10~ 11	現場内において、作業員2人で水槽（H?1.8m）からポンプ吸引ホースを引き上げる作業を行っていた。被災者は水槽の中段（H?0.9m、w?5cm）に足をかけホースを引っ張り、もう一人はそのホースを地面から引っ張る手伝いをしてた。ホースを引く二人の息が合わず被災者はバランスを崩してしまい転落し左足と左手を負傷した。	66	1 ~ 9
9	17~ 18	足場で作った棚整理（2段目高さ1.5m）をしていた時、バランスをくずし誤って足を踏み外し落下し負傷した。	61	1 ~ 9
10	9~ 10	当社資材置き場において、敷地から市道に木の枝が倒れていたため、取り払おうと脚立にあがり作業していたところ、バランスを崩し転落し腰部及び右手を地面に打ち付け負傷した。	49	10 ~ 29
10	17~ 18	当日、被災者は1-6反応消泡水管のリークテストを実施していた。移動式足場を使用し実施していたが、届かない場所で漏れを確認したため、隔壁（高さ約5.4m）上部に乗り移り、作業中に配管ユニオンに掛けたパイプレンチが滑り、その勢いで墜落した。	39	10 ~ 29
11	15~ 16	配水地流入管ほか整備工事現場で、管布設作業中、掘削完了部分の転落危険箇所バックホウを配置し、通行できないように対策していたが、わずかな隙間（30cm程度）を横断して渡ろうとして、その際に右手に持っていた工具箱がバックホウのキャタピラに当たり、バランスを崩し落下しそうになったので、かけてあった水圧	63	1 ~

		サポートを踏み台にして反対側に飛び渡ろうとしたが足を滑らせ、深さ1.8m程の掘削床に転落した。その際に左足太股に負荷がかかり受傷した。	9
11	11～ 12	歩道と車道下の水路既設床板取替で、既設床板を1mピッチで Cutter 入れをして床板を撤去する作業に従事していた。点検口蓋部分には、アンカー閉めの鉄筋が入っておらず、床板と固定されていなかった為に、被災者が工具を取りに床板上を移動した際に、被災者の重みで支えのない床板が落ちて、被災者が約2m下の水路へと床板上を滑り落ちる途中で、落ちてきた点検口蓋が腹部を強打して救急搬送された。被災者は不安全行動などしておらず、普通に工具を取りに移動した際に起きた事故で、当社作業責任者も落ちた点検口蓋を確認して初めて無筋であることを知った次第である。	36 10 ～ 29

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to：[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_09.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html)